港区立三光幼稚園　テーマ：三光幼稚園としぜん　　1/2

活動事例

園庭の自然に触れ、様々な方法で表現してみよう

環境をデザインする

・１グループ４名のグループを四つ作り、グループごとに異なる園庭の自然物と関わる活動が行えるようにした。
・丸、長方形の鏡を購入し、活動日以前から鏡に映った自然物やその他のものの様々な見え方に気付けるようにした。
・幼児が捉える自然の面白さを、幼児の目線ですぐに共有できるよう、インスタントフィルムカメラを購入した。
・グループ１：芋ほりの際に出た芋づるを乾燥させ、園庭にまとめた状態で準備しておいた。
・グループ２：５cm程度のキューブ形の土粘土を用意し、イメージした自然物を表現できるようにした。
・グループ３：透明容器と刷毛を用意し、ビオトープの水を入れ、自然物に塗ることで変化に気付けるようにした。
・グループ４：白い紙と鉛筆を用意し、モクレンの木の表面をフロッタージュすることで模様に対する気付きが出てくるようにした。

探究活動を実践する

幼児が日頃から親しんでいるモクレンの木との関わりをテーマにしたグループでは、モクレンを擬人化し、「顔、体はどこか」という問いを投げかけた。じっくりとモクレンを見ることで、モクレンの動きや表情を感じ、感じたことを言葉で表現し、より親しみをもつ姿が見られた。幼児が自分の体を使ってモクレンを表現する際には、全身を使いながら、「そこが手だね」など、一人一人が感じたことを共有したり、一緒に表現したりすることを楽しみながらモクレンへの理解を深めていた。

芋づるを使った表現をテーマにしたグループでは、芋づるからどのような世界が広がっているかを問いかけ、指で地面に線を引くことで表現できるようにした。教師や友達の姿から刺激を受け、芋づるの続きを園庭中に描く中で、様々な道や人の一生など、それぞれの幼児なりのイメージを広げ表現していた。描き終わった後に俯瞰しながら園庭全体を見たり、自分のイメージを言葉で表したりしながら友達と共有する姿が見られた。

振り返りを踏まえた気付き

- 今回はグループに分かれ、それぞれが異なるテーマで園庭の自然との関わりを楽しめるようにしたことで、より一つの事柄にじっくりと関わり、一人ひとりの自然の捉えを深めたり、それをグループの友達と言葉や動きを通して共有したりした。それにより、自然への親しみを高め、自分から関心をもって関わる姿につながっていた。
- 教師として、幼児が自然のどこに面白さを感じ、どのように捉えているかを知る機会になった。それにより、より幼児が自然を身近で、親しみを感じるものとして関わるための教師の援助や環境構成を意識することができた。